

まちの話題

パート2

コミュニティ・プラザが10周年

コミュニティ・プラザは図書館、公民館、AVホール、研修室、大会議室など町民の文化活動の拠点として利用され、10月31日をもって10周年を迎えました。特に図書館は昨年、貸出冊数5年連続日本一(全国同規模153町村中)となり10年間で200万人が利用し、本の貸し出しが300万冊に達しました。

この日は10周年を記念して、県立図書館から絵本約500冊を積んだ車「おはなしパケット号」を招き、町内の本の読み聞かせを行うグループが主体になり、読み聞かせや大型紙芝居、工作教室、餅つき大会などが行なわれ、家族連れで賑わいました。



小林松治さん 84歳 (葛窪)

地道なボランティア活動

10月31日、県道乙事富士見線でかごいっぱいのごみをのせて自転車をひいているおじいさんに会いました。

小林松治さん(葛窪)84歳は週に3・4回自転車で葛窪～信濃境～富士見台まで道端のごみを回収し、途中ごみステーションで空き缶などを捨て、帰りは県道乙事富士見線を上って自宅までごみを回収しているとのことでした。

大変頭の下がる思いでした。誰もがごみを捨てなければ町はきれいでいられますが、こうした地道なボランティアのお陰で町がきれいでいられることを感謝したいと思います。

中越地震・豪雨災害義援金

今年台風と地震と大きな災害が発生しました。富士見町でも義援金の受付を行ったところ、11月15日現在、中越地震被災者義援金が1,799,351円、9・29豪雨災害義援金が23,000円、台風21号被災者義援金が14,000円、台風22号被災者義援金が14,297円集まりました。ありがとうございました。

なお、豪雨災害による義援金は11月で受付が終了しました。中越地震の受付は12月30日までです。



町の消防署員が被災地で救助活動を行いました

ふるさとのみなさんへ 東都高原富士見会だより

矢沢也夫 東京都港区(立沢出身)

「方言の楽しさ」

今年も新しい言葉や造語がたくさん生まれ流行った。「おれおれ詐欺」「マツケンサンバ」「ハッスル・ハッスル」などしこジャパン「気合だ」「新庄節」「ヨソ様」「冬ソナ」など。

言葉は生きものである。時代によって新しく生まれてくる言葉もあれば、失われていく言葉もある。昨今のように、マスコミ・IT化の急速な発達と生活環境の急激な変化の時代であれば尚更である。故郷を離れ、東京での生活の方が長くなった。そのせいかこの頃は、子供の頃耳にした何気ない会話(事例Ⅰ)の一言一言に「人心」を方言もまた楽(事例Ⅱ)に方言は「言葉のキャッチボールのかけ橋」を感じる。

(事例Ⅰ)
A「コンチワ イルカエ」
B「アイイ コンチワ キテクレ
タカエ」はい、こんにちには、きてくれましたか
A「マー コノエエジャ ヨカツ
タナーエ コンボコ ウマレタ
ツテ」まあ、お宅ではよかったですね。赤ちゃん(子供)が生まれましたぞで。
B「マー アノー サツソクウマ

レテ ヨーダデナー」ええ、おかげさまで、安産でよかったです。
A「オンナツコカエ オットココエ」女の子ですか。男の子ですか。
B「アー ウン ドーモ オット
コノヨーダナーエ」ええ、どうも男の子のようですよ。
A「マー ホリヤー ホリヤー
ヨカツタ」ええ、ええ、それは、それはよかったです。
B「アー アリガトウ ヨカツタ
ワエ」ええ、ありがとうございますよ。会話の中に、他人への思いやり、慈しみを強く感じる。

(事例Ⅱ)
生徒が職員室に掃除終了の報告に来る。掃除・整頓は完璧。だが窓がしめてない。そこで、窓をタツテ・窓をタツテ」生徒はキョトンとしている。一瞬、一人の生徒が窓の前に立ってこちらを向く。その時、「窓をタツ」の意味が理解できなかったことを知る。窓をタツとは、窓を閉めると言ったんだよ。生徒曰く、先生「標準語で話して、独り善がりには迷惑だよ」。返す言葉なし。

でも方言は使い方により、言葉のキャッチボールのかけ橋になり得るし、「和」をもたらししてくれる。笑顔にさせてくれる。「方言も また楽し」